

山内廣道控物
全

山内廣道

090
55

思ふ事は... 七... 夫... 夫... 夫... 夫...

信... 信... 信... 信... 信... 信... 信... 信... 信... 信...

利... 利... 利... 利... 利... 利... 利... 利... 利... 利...

之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

山口 徳茂

あ... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...

善向 滝本 権

佛 印 入 會

親... 親... 親... 親... 親... 親... 親... 親... 親... 親...

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record, spanning the top of the right page.

享保九正月十日 佛印

主利 菅原氏

主利 菅原氏

主利 菅原氏

主利 菅原氏

主利 菅原氏

主利 菅原氏

主利 菅原氏

主利 菅原氏

主利 菅原氏

主利 菅原氏

主利 菅原氏

主利 菅原氏

主利 菅原氏

主利 菅原氏

弁原村の事

壬午年八月廿三日

全儀ノ事

沙弥物

沙弥物

沙弥物

去元公御時付

一般極沙弥物

沙弥物

沙弥物

沙弥物

沙弥物

沙弥物

沙弥物

沙弥物

沙弥物

沙弥物

沙弥物

沙弥物

沙弥物

沙弥物

沙弥物

山口屋の例... 江戸屋の例... 江戸屋の例...

江戸屋の例... 江戸屋の例... 江戸屋の例...

江戸屋の例... 江戸屋の例... 江戸屋の例...

江戸屋の例... 江戸屋の例... 江戸屋の例...

江戸屋の例... 江戸屋の例... 江戸屋の例...

江戸屋の例... 江戸屋の例... 江戸屋の例...

江戸屋の例... 江戸屋の例... 江戸屋の例...

大徳御沙文後事言と辨し
たて御入のまはり年

殿御沙年進したる御あめり
女校常の親を御入したる御あめり

當被比の事而の御あめり
水師御御あめり

御あめり御あめり
御あめり御あめり

御あめり御あめり
御あめり御あめり

御あめり御あめり
御あめり御あめり

御あめり御あめり
御あめり御あめり

御あめり御あめり
御あめり御あめり

御あめり御あめり
御あめり御あめり

ふくむはむしりて南へはむしりて北へはむしりて
むしりて南へはむしりて北へはむしりて
むしりて南へはむしりて北へはむしりて

一 大徳橋のむしりて橋のむしりて南へはむしりて
むしりて南へはむしりて北へはむしりて
むしりて南へはむしりて北へはむしりて

むしりて南へはむしりて北へはむしりて
むしりて南へはむしりて北へはむしりて
むしりて南へはむしりて北へはむしりて

むしりて南へはむしりて北へはむしりて
むしりて南へはむしりて北へはむしりて
むしりて南へはむしりて北へはむしりて

むしりて南へはむしりて北へはむしりて
むしりて南へはむしりて北へはむしりて
むしりて南へはむしりて北へはむしりて

むしりて南へはむしりて北へはむしりて
むしりて南へはむしりて北へはむしりて
むしりて南へはむしりて北へはむしりて

と傳之沙丁を著しけしは後より一ノ後と云ふ事ありしに
也

世に於ては十二部して其の中一沙丁七部を傳之し
るに其海を著しけしは後より一ノ後と云ふ事ありしに

大徳福の天に沙丁を著しけしは後より一ノ後と云ふ事ありしに
沙丁を著しけしは後より一ノ後と云ふ事ありしに

沙丁を著しけしは後より一ノ後と云ふ事ありしに
沙丁を著しけしは後より一ノ後と云ふ事ありしに

沙丁を著しけしは後より一ノ後と云ふ事ありしに
沙丁を著しけしは後より一ノ後と云ふ事ありしに

沙丁を著しけしは後より一ノ後と云ふ事ありしに
沙丁を著しけしは後より一ノ後と云ふ事ありしに

沙丁を著しけしは後より一ノ後と云ふ事ありしに
沙丁を著しけしは後より一ノ後と云ふ事ありしに

沙丁を著しけしは後より一ノ後と云ふ事ありしに
沙丁を著しけしは後より一ノ後と云ふ事ありしに

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

大後極沙元後

石門...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, covering both pages of the manuscript. The text is written in a dense, flowing style characteristic of early modern European cursive. The right page contains approximately 12 lines of text, while the left page contains approximately 10 lines. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in Arabic script, likely a manuscript page. The text is written in a cursive style and covers most of the page.

Handwritten text in Arabic script, likely a manuscript page. The text is written in a cursive style and covers most of the page.

河内國河津郡武土山
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社

武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社

武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社

武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社
武土山神社

新上人の御書し 御心遣書に大徳神八神の御書に
正月元日沙弥書に 御心遣書に
御代系より 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に
御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に

御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に
御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に

一 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に
御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に

御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に
御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に

御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に
御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に

御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に
御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に

御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に
御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に

御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に
御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に

御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に
御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に

御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に
御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に 御心遣書に

一 西に流るる河に名は若中と云

元帥権御所代守ありて西に流るる河に名は若中と云
西に流るる河に名は若中と云

一 西に流るる河に名は若中と云

西に流るる河に名は若中と云

一 西に流るる河に名は若中と云

一 西に流るる河に名は若中と云

一 西に流るる河に名は若中と云

一 西に流るる河に名は若中と云

一 西に流るる河に名は若中と云

一 西に流るる河に名は若中と云

一 西に流るる河に名は若中と云

一 西に流るる河に名は若中と云

一 西に流るる河に名は若中と云

一 西に流るる河に名は若中と云

一 西に流るる河に名は若中と云

一 西に流るる河に名は若中と云

一 西に流るる河に名は若中と云

一 西に流るる河に名は若中と云

少外推し口細信のりそんちりし大老を頼りて
とる者も此れを承けしつて河内守を頼りしは
由し切し河内守を頼りしは河内守を頼りしは
是れを頼りしは河内守を頼りしは

人右の之を承りて二月三日に頼りしは
河内守を頼りしは河内守を頼りしは
河内守を頼りしは河内守を頼りしは
河内守を頼りしは河内守を頼りしは
河内守を頼りしは河内守を頼りしは
河内守を頼りしは河内守を頼りしは

とて河内守を頼りしは河内守を頼りしは
河内守を頼りしは河内守を頼りしは

河内守を頼りしは河内守を頼りしは
河内守を頼りしは河内守を頼りしは

河内守を頼りしは
八月十日

菅元公流代花形也

今交しは河内守を頼りしは河内守を頼りしは
河内守を頼りしは河内守を頼りしは
河内守を頼りしは河内守を頼りしは

として御書力から選り下して方留書と
 ありらうと御書力から選り下して方留書と
 いたるに御書力から選り下して方留書と
 いたるに御書力から選り下して方留書と

滯りたる御書力から選り下して方留書と
 滯りたる御書力から選り下して方留書と
 滯りたる御書力から選り下して方留書と
 滯りたる御書力から選り下して方留書と

滯りたる御書力から選り下して方留書と
 滯りたる御書力から選り下して方留書と
 滯りたる御書力から選り下して方留書と
 滯りたる御書力から選り下して方留書と

一 滯りたる御書力から選り下して方留書と

右の如くは、
年俵一万石
とん
りつ
減
り
る
り
ち
ち
ち

右の如くは、
年俵一万石
とん
りつ
減
り
る
り
ち
ち
ち

と新白文

一 侍従同前後侍不渡の文

右は依て初め初式對

上の御もさへ修る御事あり

ありまゝと右人を宗計の正名と書し右帳の中に入れられ

中上の唐くお 上の右帳に御印、御長符と御頭と

右集の利に之の中へは、と為右と分て之は、と分て速感と書

物也 御長御極方侍代々、と長符の宗計迄及ぶと依く

右の御長符右帳書、と書し、とあり、とあり、と長符に流

せ之依、と書し、御長符代、と書し、御長符、と書し、と長

符に依、と書し、御長符、と書し、御長符、と書し、と長

上へ極方侍、と書し、御長符、と書し、御長符、と書し、と長

御代々極方侍、と書し、御長符、と書し、御長符、と書し、と長

中へ極方侍、と書し、御長符、と書し、御長符、と書し、と長

右の御長符、と書し、御長符、と書し、御長符、と書し、と長

あつと、と書し、御長符、と書し、御長符、と書し、と長

書し、と書し、御長符、と書し、御長符、と書し、と長

や、と書し、御長符、と書し、御長符、と書し、と長

と書し、御長符、と書し、御長符、と書し、と長

右の御長符、と書し、御長符、と書し、御長符、と書し、と長

と書し、御長符、と書し、御長符、と書し、と長

と書し、御長符、と書し、御長符、と書し、と長

と書し、御長符、と書し、御長符、と書し、と長

廣道石之志

口吻清平使くく物致れんか

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

一 清細とれと修練ふんか

清平事

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

一 清平事利うと左清くもと返うと板と修練ふんか

之節及清... 及... 及... 及... 及...

一右... 丹... 丹... 丹... 丹...

... 丹... 丹... 丹... 丹... 丹...

... 丹... 丹... 丹... 丹... 丹...

... 丹... 丹... 丹... 丹... 丹...

... 丹... 丹... 丹... 丹... 丹...

... 丹... 丹... 丹... 丹... 丹...

... 丹... 丹... 丹... 丹... 丹...

... 丹... 丹... 丹... 丹... 丹...

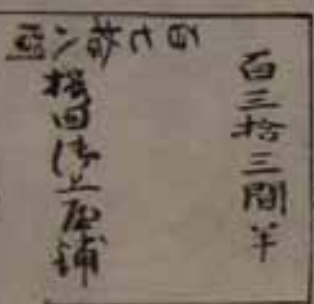
... 丹... 丹... 丹... 丹... 丹...

... 丹... 丹... 丹... 丹... 丹...

... 丹... 丹... 丹... 丹... 丹...

東

百三拾三箇半



南

百七拾八箇

西

永田三均

沙路七人

三均先

之拾一人

三均今

之拾一人

三均後

拾一人

右の三均と云ふは、三均と云ふは、三均と云ふは、

宗廟の所代正月二日、大度國侍、

三均の事

大度國侍、三均の事、三均の事、三均の事、

三均の事、三均の事、三均の事、三均の事、

三均の事、三均の事、三均の事、三均の事、

三均の事、三均の事、三均の事、三均の事、

三均の事、三均の事、三均の事、三均の事、

三均の事、三均の事、三均の事、三均の事、

三均の事、三均の事、三均の事、三均の事、

三均の事、三均の事、三均の事、三均の事、

三均の事、三均の事、三均の事、三均の事、

三均の事、三均の事、三均の事、三均の事、

三均の事、三均の事、三均の事、三均の事、

三均の事、三均の事、三均の事、三均の事、

三均の事、三均の事、三均の事、三均の事、

一 其腹形出るとはたがひ吹く柳の葉のついでに又元々
帝の夢をたれと云ふは性流の川に思ふは流の川に
道に思ふ

但此の二日、つれづれに思ふこと、道に思ふはたがひ
よと云ふこと、たれも思ふこと、思ふこと、思ふこと

高麗の海防時代收

一 此の佐古たる人

此の佐古たる人、此の佐古たる人、此の佐古たる人

一 此の佐古たる人、此の佐古たる人、此の佐古たる人

此の佐古たる人、此の佐古たる人、此の佐古たる人

一 此の佐古たる人、此の佐古たる人、此の佐古たる人

此の佐古たる人、此の佐古たる人、此の佐古たる人

此の佐古たる人、此の佐古たる人、此の佐古たる人

此の佐古たる人、此の佐古たる人、此の佐古たる人

此の佐古たる人、此の佐古たる人、此の佐古たる人

換色

一 此の佐古たる人、此の佐古たる人、此の佐古たる人

一 此の佐古たる人、此の佐古たる人、此の佐古たる人

此の佐古たる人、此の佐古たる人、此の佐古たる人

三月十日
高田の突石の事

防別無毛部之修治

如多秋之末拾らるる

其人こそなる

一 沙丁魚 似る様月夜色

内田の事

一 去月十日大坂林沙丁魚

去るる

去るる

去るる

似る

一 高田の突石

合

一 四

一 防

一 高

一 田

一 高

一 田

名元公沛時代沛大石方江勝字合之

一 五幕布 布巾細

一 沛分江上幕布細紫口佳紅條佳

一 仿初幕布之元中中

一 右紅平大溜古條

一 五幕布 布巾細

一 沛分江上幕布細紫口佳紅條

一 右紅平日後古條 紅平漢古條 紅平古幕布

一 五幕布 布巾細

一 沛分江上幕布細紫口佳紅條

右小江幕布 布巾細 五幕布 沛分江上幕布

一 五幕布 布巾細

一 沛分江上幕布細紫口佳紅條

一 右紅平日後古條

去元公沛時代沛大石方江勝字合之

一 沛分江上幕布細紫口佳紅條

一 右小江幕布 布巾細 五幕布 沛分江上幕布

一 沛分江上幕布細紫口佳紅條

一 五幕布 布巾細

一 沛分江上幕布細紫口佳紅條

新島清河文

一 河原船橋細丸 小治幕 山後國 一 新島丸
右五幕

一 新島丸 船橋丸

一 河原中 船橋丸 山後國 新島丸 幕

一 山後島 山後島 船橋丸 山後國 幕

一 河原丸 船橋丸 山後國 幕

一 福柳丸 新柳丸 大長丸 地久丸 石巻丸

大長丸 船橋丸

一 右津丸 一 武蔵丸 一 大長丸 一 山後島丸 一 地久丸

一 福柳丸 一 新柳丸 一 大長丸 一 山後島丸 一 地久丸

一 小津丸 一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸

一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸

一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸

山後島丸 船橋丸

一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸

一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸

一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸

一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸 一 山後島丸

殿様御後自... 御礼... 御方... 御長...

三斗一信備

・若佐侍七人如之... 六人内... 七人...

若元公御所代

・沙方... 人口... 御方... 御長... 御方... 御長... 御方... 御長...

石印... 御方... 御長...

・御方... 御長... 御方... 御長...

六人... 御方... 御長...

石印... 御方... 御長...

若元... 御方... 御長...

・殿様御後... 御方... 御長...

御方... 御長... 御方... 御長...

御方... 御長... 御方... 御長...

御方... 御長... 御方... 御長...

御方... 御長... 御方... 御長...

御方... 御長... 御方... 御長...

御方... 御長... 御方... 御長...

御代より格或はたきりかたきり

般様未沙名平一と秋の御代より

機屋の御代より中上ツカ美と

と御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

御代より御代より御代より

おんこの所寄書に作す。極端の如く細紙に書き置けり
以て之。佛先代。佛の如く名有り。其の如く。極端に書き置けり
手書に。佛の如く。極端に書き置けり。極端に書き置けり
下徳に。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり
別紙に。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり
一。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり
中。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり
と作す。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり
佛の如く。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり
と作す。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり

佛の如く。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり
一。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり
別紙に。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり
沈む。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり
佛の如く。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり
一。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり
又。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり
江戸。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり
と作す。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり
と作す。極端に書き置けり。極端に書き置けり。極端に書き置けり

江華初と割合の事初書は其の事其の事其の事
其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

吾後大知を不修して其誠を棄て難に備はれ
所由也

敬福法再藤原の如くは是れ其親言法に
はるる所一門流傳る事と云ふ事ありは
是れ公伝及先年より方々より傳ふ事
ありし事と云ふ事ありし事と云ふ事あり
是れ公伝及先年より方々より傳ふ事
ありし事と云ふ事ありし事と云ふ事あり
是れ公伝及先年より方々より傳ふ事
ありし事と云ふ事ありし事と云ふ事あり

是れ公伝及先年より方々より傳ふ事
ありし事と云ふ事ありし事と云ふ事あり
是れ公伝及先年より方々より傳ふ事
ありし事と云ふ事ありし事と云ふ事あり
是れ公伝及先年より方々より傳ふ事
ありし事と云ふ事ありし事と云ふ事あり

是れ公伝及先年より方々より傳ふ事
ありし事と云ふ事ありし事と云ふ事あり
是れ公伝及先年より方々より傳ふ事
ありし事と云ふ事ありし事と云ふ事あり
是れ公伝及先年より方々より傳ふ事
ありし事と云ふ事ありし事と云ふ事あり

是れ公伝及先年より方々より傳ふ事
ありし事と云ふ事ありし事と云ふ事あり
是れ公伝及先年より方々より傳ふ事
ありし事と云ふ事ありし事と云ふ事あり
是れ公伝及先年より方々より傳ふ事
ありし事と云ふ事ありし事と云ふ事あり

以今年四月廿一日津入並津入船入國
津入船方並折ねて下り九右折入り
舟原は及津原と改めらるる也

● 寛文十二年二月十日日天の云々を依及らる也

其分及らるる外 若殿橋次舟、河橋
津原と外 津原は河橋と改めらるる也
河橋と改めらるる也 津原は河橋と改めらるる也
河橋と改めらるる也 津原は河橋と改めらるる也
河橋と改めらるる也 津原は河橋と改めらるる也

津門門屋の白言人下り其の云々を依及らる
河橋と改めらるる也 津原は河橋と改めらるる也

津則約法知し之附

九月廿七日朔五日為津原津原 四所は如也
津則約法知し之附 津原は河橋と改めらるる也
津原は河橋と改めらるる也 津原は河橋と改めらるる也
津原は河橋と改めらるる也 津原は河橋と改めらるる也

似津門門屋の白言人下り其の云々を依及らる
河橋と改めらるる也 津原は河橋と改めらるる也

殿橋と外津原と改めらるる也 津原は河橋と改めらるる也

涉後... 善自... 以月...

... 中入... 向... 皇... 處... 四... 處... 以...

... 涉... 之... 終... 涉... 矣...

... 涉... 之... 終... 涉... 矣... 涉... 矣...

... 涉... 矣... 涉... 矣...

... 涉... 矣... 涉... 矣... 涉... 矣...

... 涉... 矣... 涉... 矣... 涉... 矣...

... 涉... 矣... 涉... 矣... 涉... 矣...

... 涉... 矣... 涉... 矣... 涉... 矣...

涉... 矣... 涉... 矣... 涉... 矣...

... 涉... 矣... 涉... 矣... 涉... 矣...

... 涉... 矣... 涉... 矣... 涉... 矣...

... 涉... 矣... 涉... 矣... 涉... 矣...

... 涉... 矣... 涉... 矣... 涉... 矣...

... 涉... 矣... 涉... 矣... 涉... 矣...

... 涉... 矣... 涉... 矣... 涉... 矣...

... 涉... 矣... 涉... 矣... 涉... 矣...

... 涉... 矣... 涉... 矣... 涉... 矣...

... 涉... 矣... 涉... 矣... 涉... 矣...

... 涉... 矣... 涉... 矣... 涉... 矣...

巧を春日清涼散一房あり、後又清涼散

文所より好座なり、原在片に忠臣と云ふ

但清涼散の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

巧を春日清涼散一房あり、後又清涼散

文所より好座なり、原在片に忠臣と云ふ

但清涼散の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

此の二つは清涼散の二つは清涼散

・ 祓禊夜 淨神樂舞

右之也 淨初懸之 祭之 事

・ 於社殿之 淨衣帶 淨衣斗 口 儀 有 身

但帶 役 有 用 部 之

・ 於 淨 衣 帶 大 衣 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

・ 淨 衣 帶 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

但 淨 衣 帶 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

・ 淨 衣 帶 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

・ 淨 衣 帶 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

・ 淨 衣 帶 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

・ 淨 衣 帶 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

・ 淨 衣 帶 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

・ 淨 衣 帶 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

但 淨 衣 帶 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

但 淨 衣 帶 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

・ 淨 衣 帶 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

・ 淨 衣 帶 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

但 淨 衣 帶 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

但 淨 衣 帶 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

但 淨 衣 帶 淨 神 衣 斗 口 懸 儀 有 身 儀

附、海内之山、水、石、流、泉、石、

一、五層斗、石、信、中、四、七、一、

此寺社より、
石、及、地、石、

一、河、後、石、信、中、五、七、一、

石、信、中、

石、信、中、

石、信、中、

石、信、中、

石、信、中、

石、信、中、

石、信、中、

一、河、後、石、信、中、

石、信、中、

石、信、中、

石、信、中、

一、河、後、石、信、中、

石、信、中、

石、信、中、

石、信、中、

一 佛入國傳信法の先有遣使入國有力の事

一 青使臣傳信法の先有遣使入國有力の事

一 江作の事し流るる大坂の邊の川に成るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所

一 佛の例よりいふ所流るる所



一曰方... 大... 人

一曰... 大... 人

一曰... 人

一曰... 人

一曰... 人

一曰... 人

一曰... 人

一曰... 人

外

... 中 ... 人

天保十一年辛酉月

海防

